

卒業後の私

山田 博之 (平成30年3月 文学部 史学・文化財学科卒業)

1. 講師経験により得たこと

私は大学を卒業後、鹿児島市で臨時的任用教員として市内の中学校に採用されました。この勤務校での3年間は、私が今も教師を続けていられる理由になっています。私が教師を続けたいと思わせてくれる、素晴らしい先生たちと生徒との出会いがありました。もちろんうまくいかないことや辛いこともありました。しかし、そのたびに周りの先生方に助けをいただきながら乗り越えることができました。また、たいていのことは「生徒のため」を思えば頑張ることができました。そして、生徒たちもそれに応えてくれました。この3年間は私に「教師」という仕事のやりがいと自信を身に付けさせてくれました。



よく「教員はブラック」だと言われます。日々の授業をこなしていくのは当然で、学級経営や学校で割り当てられている校務分掌の仕事、生徒指導、部活動指導など、とにかくやることが多く、土日は部活動の大会引率、地域の行事などに生徒と参加するなど、教員としての年数や立場に関係なく、それらの仕事に従事する必要があります。確かに大変なことも多いですが、一つ一つのことが経験値として自分に蓄えられ、大きく私を成長させてくれました。常勤・非常勤講師として働きながら、採用試験の勉強と両立していくのは簡単ではありませんが、私の場合は講師としての経験が、結果として採用試験に活かされることになりました。

2. 採用試験に合格するまで

講師1年目～3年目までは、あまりの仕事の膨大さに十分な勉強時間を確保することができないまま、時間だけが過ぎていきました。もちろんそんな状態では採用試験に合格できるはずもありませんでした。一時は現場を離れ、勉強に集中する道を取ることも考えましたが、このまま実務経験を積み上げながら、臨時的任用教員を続けていくことにしました。

そして今年度は、教員になって初めての人事異動を経験しました。現在勤務する中学校は、前任校と比べると学校規模が倍以上あり、担当する授業数も増えました。しかし、学校規模が大きくなったことで校務分掌が分散したことや部活動も副顧問となり、以前よりも採用試験のための時間を作りやすくなりました。また、この年の5月に入籍し、生活環境も大きく変化しました。私は、「合格するならここでやるしかない。」と覚悟を決めて、採用試験の勉強に取り組みました。平日は2時間、休日は部活の指導と両立しながら5時間以上と時間を決めて勉強に励みました。それを実現できたのも、学校と家庭でのサポートがあったからだと思います。また、この年から採用試験の1次試験の一部が免除されるようになり、1次試験については専門教科の社会科だけに集中して勉強することができました。結果、1次試験に合格することができました。2次試験については、様々な教育関係の資料を見ながら、質問を想定し、自分なりの解答を準備しました。その時に何よりも役に立ったのが、これまでやってきた講師としての自分の経験だったのです。教科指導や生徒指導など、現場で実際に自分が経験したことをもとに考えることができました。また、グループ討論などは同じように1次試験に合格した先生同士で集まって練習をしたり、勤務校の管理職の先生方に見ていただいたりしました。そうした努力が実を結んだ結果、2次試験を通過し、令和4年度鹿児島県教員採用試験(中学・社会)に合格することができました。

3. これから教職課程を履修する皆さんへ

これから教職課程を履修される皆さんに、私からいくつか伝えておきたいことがあります。採用試験のポイントについては「本気になるタイミングとチャンスを逃さないこと」だと思います。特に、大学卒業後に講師として働きながら正規採用を目指そうとする人たちは大切にしてほしいです。現在、教員採用試験の倍率は下降傾向にありますが、全く対策もせずに合格できるほど簡単ではありません。特に、働きながら合格を目指すのは、私のように勤務校の状況によってはかなり難しくなると思います。その際、どの程度本気になって勉強に取り組むのかはとても重要だと思います。また、諦めなければチャンスは必ずやってきます。その時に合格できるだけの力を身に付けておく日々の努力も必要です。結果論ですが、私のように講師として経験を積んでから正規採用になることも1つの正解かもしれません。

最後に、「教員」という仕事は楽しいということです。確かに、この仕事は大変です。業務は膨大で、時間外・持ち帰り仕事は当たり前、時期によってはほとんど休みなく働くこともあります。しかし、そこには生徒がいます。私たちのことを「先生」と呼び慕ってくれる生徒たちです。その生徒たちと日々の学校生活のなかで、時には兄弟のように優しく、時には師として厳しく接し、刺激のある毎日を過ごすことができます。教師の仕事の魅力というのは、そんな生徒たちの日常に深くかわり、成長を間近で感じることができることだと思います。

これから皆さんが経験するすべてのことが、皆さん一人一人の将来の教師像を形作っていきます。教職を志す皆さんの活躍を願っております。頑張ってください。